# NINJAL シンポジウム「データに基づく日本語研究」の開催にあたって

国語研の第 2 期の評価ではプロジェクト間の有機的なつながりの不足が指摘されたため第 3 期では各プロジェクトがその目的を達成すると同時に他のプロジェクトとの協力関係や共同研究の強化が課題となりました。そのため月に一回のプロジェクト推進会議で各プロジェクトの課題を話し合い、定期的に各プロジェクトの内容や進み具合を報告しあい、それらを知ることで互いに協力関係を築き、共同研究の可能性を模索してきました。すでにいくつかの共同研究が始まり、すこしずつ成果も出てきています。

本シンポジウムは第 3 期のちょうど半ばに差し掛かって後半に向けて研究を推進していくために、すべてのプロジェクトが参加して、その内容を報告して、議論しあうことでさらなる進化を遂げるために企画されました。テーマは第 3 期の中心テーマであるデータに基づく日本語研究とし、各プロジェクトがどのように第 3 期のテーマを推進しているかを報告していただきます。

基調講演はカリフォルニア大学サンディエゴ校のラファエル・ヌニェス氏にお願いしました。氏は空間認知や時間認知に関する多くの画期的な業績を有する認知科学者で、前方が過去、後方が未来とするアイマラ族の時間認識の研究は夙に有名です。氏はいわゆる実験的方法だけでなく、フィールドワークによる参与観察、ビデオ映像の解析によるマイクムーブメントの解析、文献学等さまざまなデータを駆使して、現象を一般化する新しいタイプの認知科学者です。私はヌニェス氏と現在琉球や日本各地の空間参照枠の違いを研究していますが、その斬新な発想と制御された実験手法、精密な統計分析には多くを学んでいます。

また、二日目にはモダリティを中心に前半はコーパス、多角的な視点から現象をみる方法を追求します。

国語研の研究の現在と未来を見るための良い機会になると思いますので、期待していただきたいと思います。

国立国語研究所長
田窪　行則